

日本原子力学会核燃料部会

平成15年第1回運営委員会議事録

日時:平成15年1月24日(金) 11:00~12:30

場所:日本原子力学会 会議室

出席者(順不同、敬称略):

山脇部会長、大井副部会長、安部田委員、伊東委員、岩田委員、上塚委員、緒方委員、木下委員、久保田委員、河野委員、坂井委員、林委員、松井委員、米田委員、和田委員、松本委員、

[代理出席] 大槻氏(後藤委員代理)、森氏(小林委員代理)

議事

1. 副部会長、委員、幹事の交代について

山脇部会長より大井副部会長の交代の紹介があり、推薦者の確認があった。

大井副部会長より、原子燃料工業の森一麻氏を副部会長に推薦する提案があり、全員の賛成で決定した。

ただし、役員の変更は総会の承認をもって有効となるため、3月総会までは大井副部会長にお勤め頂くこととなった。

このように役員の変更は総会の承認をもって有効となるため、今後は役員の変更を年度に変更する方向で、次回総会に提案することになった。

また、森氏より原子燃料工業より一人の出席としたいので、原子燃料工業代表を小林委員より森委員に変更したい申し入れがあり、了承された。

2. 前回議事録の確認

伊東委員より、平成13年第4回運営委員会議事録(案)[資料2-1]について紹介が行われ、コメント無く了承された。

3. 運営委員の担当分野の割り振りについて

庶務幹事より、昨年決定した運営委員の担当業務分担[資料3]について説明し、今年中に平成15年および平成16年の国際活動担当と評議議員2名を決める事になった。

4. 部会収支について

庶務幹事より、平成14年度部会収支中間報告と平成15年度部会予算[資料4] について説明をおこなった。

1月末に学会に提出期限の平成15年度部会予算において、学会の財政難より部会配布金総額が平成14年度4百万円より、平成15年度は3百万円に削減されるのに連動し、当部会の学会配布金収入も277千円(平成14年度395千円)に削減される。セミナー残金も平成14年度実績並(平成14年度予算320千円、実績70千円)とすると収入合計347千円となる。

これに対し支出は、平成14年度実績並とすると、部会報2回発行の印刷費310千円と発送費182千円、オフコンリース料分担金60千円で支出合計552千円となり、不足205千円となる。

これを平成14年度末越金(今年1月~3月の春の年会等での支出ゼロとして約250千円の予想)で賄うと、平成15年度末越金はほぼゼロに近くなる。

1月末提出の平成15年度部会予算は従来通りの上記内容で提出とするが、今年中に支出削減策/増収策の企画を検討するため、次回以降会計・財務担当の庶務幹事が具体策を取り纏め提案することになった。

5. 核燃料部会ホームページについて

河野委員より、ホームページの更新役割分担確認と作成状況についてと、掲示板の運用がスタートしているが利用がまだ無く、活用をPRしていくとの報告[資料5]があった。

新入会／脱会部会員のメーリングリストへの登録／削除は年1回の学会へ確認しての登録しているが、今後は入会／脱会時にメールアドレスも記載してもらい、都度登録／削除することが望ましいとの意見が出され検討することになった。

6. 部会活動の国際化・原子力学会春の年会における企画セッションについて

大井副部長より以下の報告があった。

(1) 日韓合同セミナー(燃料・材料)

2002年10月23日に韓国YongpyungでのKNSの秋の大会で燃料・被覆管の共同セッションが開催された(KAERIからの招待):部会報 No. 38, p39参照

韓国側から今後、春秋の年会に合同セッションを継続して持とうとの提案でMOU(案)の提示があった。11.10付けでDr.Yangにcounterproposal[資料6-1]

韓国側(KNS申会長)から水炉燃料のパフォーマンス会議をアジアの一員として引き受けるとの表明があった。韓国は2008年。

(2) 日本原子力学会2003年春の年会(佐世保)での日・韓・中国合同の燃料・材料・核融合部会合同のセッション

プログラム(案)[資料6-2]

問題点は、中国も入れることになり、核燃料部会の中国専門家の招聘で苦労したが、来ることは本日の連絡で決定した。但し、事前の抽象的入手は間に合わない状況である。

経費の捻出は石橋先生のご努力で九州大学工学部のアジア太平洋国際フォーラム基金からこのセッションに20万円頂くこととなった。木村先生のこの合同セッションの経費見積もりは54万円となっており34万円不足。この不足額は今回だけは、学会本部の国際交流関係の予算を使える予定で、今回は何とかなりそうである。核燃料部会は夏期セミナーで既に約20万円使っており、これ以上使えないので、共同主催の他部会分での負担をお願いしている。

今後の継続を考えると、この予算も枯渇してきており、長期的には部会として稼ぐ体質を作ることが必要である。

(3) AESJ/ANS/ENS共催の水炉燃料のパフォーマンス会議の2005年開催について

2003年3.16-19日にドイツWuerzburgで開催されるTopFuel[資料6-3]の際のSteering Committeeで2005年に東京で開催する会議の大綱を報告する必要がある。(木下委員担当)

そのため組織委員会、プログラム委員会を発足すべく部会長を中心に人選を進めている。

木下委員より、本会議の Scope、開催体制、組織構成(組織委員会、プログラム委員会の構成と役割分担)等の2005年開催要領素案[資料6-4]について説明があった。

また、大井副部長より上記素案において、「基本的には会議の参加費をもって運用する。」とあるが、国際会議を開催するためには相当資金に余裕を作らないと難しい(特に中国の人を招聘する時は当方である程度の負担をしないと無理)。資金調達のため、資金を出して頂けそうな所を共催にするとか、組織委員長の人選等、資金調達メカニズムが働くような仕組み作りが重要との提言があった。

7. 学会誌への連載講座

本件は、日本原子力学会編集委員会Eグループ(連載講座担当)より、既に連載講座を掲載した4部会を除いた部会に提案依頼があり、核燃料部会には核燃料技術について連載講座の具体化検討依頼があったもの。[資料7]

(従来は1回10ページ程度であったが、今後は1回5ページ程度、10回程度までの連載講座を2件の並行して掲載する方針とのこと)

検討の結果、体系的に基礎的知識を分かり易く解説した核燃料工学の基礎編テキストを作るくらいの積もりで構成案を作成し、範囲をどこまで含めるかについても、核燃料部会の考え方を出すことになった。

その場で事務局に確認した所、2月6日(木)までの連絡期限は延期可能で、随時受け付けるとの事なので、下記メンバーで検討委員会を作り、メール会議で次回運営委員会に提案出来る様に構成案を作成することになった。

森次期副部長(取り纏め役)、山中先生(広報担当)、岩田先生、松井先生、

上塚委員、木下委員、林委員、伊東委員、河野委員

8. 平成15年度夏期セミナーについて

上塚委員より、2003年7月10日(木)～12日(土)妙高パインバレー ロイヤルパインズホテルで開催される夏季セミナーの企画立案状況について[資料8]報告があった。

今回のテーマは原子炉燃料の基礎と開発動向とし、若い人を対象にしたプログラム内容で、講師は運営委員かその代理者をお願いしたいとの提案がなされ、プログラム案は了承された。

また、費用を削減するために、運営委員かその代理者に講師をお願いするときは謝金を無しにすることも提案され、その方向で検討していくことになった。

招待講演者の選定については、海外からの招聘の可能性も含め今後の検討課題となった。

9. 部会報(平成14年12月発行)の企画について

坂井委員より、次回部会報の企画立案について[資料9]説明と、2月28日までに執筆者の他薦・自薦依頼があり、次回運営委員会までに執筆者案取り纏めすることになった。

10. その他

岩田委員から学会HP閲覧の不良(核燃料部会をクリックすると他の部会が開く)指摘のあった。(本件は後日河野委員が調査したところ、先週末、新聞、テレビ等で報道されたウイルスによる影響で、原子力学会だけでなく他の学会も含めて学術情報センターで管理しているHPサーバーに一部障害が発生しており、最新の学会情報を引き出そうとする際に、時間がかかる、あるいはうまく引き出せないと言った問題が一部で生じているとの事であった。原子力学会のサーバー管理者にも問合せたところ、学術情報センターで現在修復中とのことで、正常な回復まで少し待つしかないとのことで、メールで運営委員に連絡した。)

11. 今後の予定(平成15年)

以下の予定が報告され確認された。

- ・第2回運営委員会と会員総会:平成15年3月27日～29日春の年会時(アルカスSASEBO)
- ・第2回運営委員会 平成15年3月28日 11時～12時30分(弁当準備)
- ・会員総会 平成15年3月28日昼 12時30分～13時
- ・第3回運営委員会:平成15年7月10日～12日 夏期セミナー時(新潟県)
- ・第4回運営委員会と会員総会:平成15年9月24日～26日 秋の大会時(静岡大学)

以上

[別紙1]

平成14年度(核燃料)部会収支中間報告 (H15. 1. 24現在)

平成15年度予算検討

(単位:円)

	科 目	H15年度 予算	H14年度		
			年度末予想 (*は確定)	予算	備 考
収入	配付金収入	* 277, 000	* 395, 000	* 395, 000	8月末時点での各部会会員数に応じて比例配分
	会費		—	—	
	寄付金・賛助金収入		—	—	

セミナーテキスト売上		*1,800	—	
セミナー残金		*70,177	320,000	
合 計		466,977	715,000	予実差 -248,023

科 目	H15年度 予算	H14年度		
		年度末実績予想 (*は確定)	予算	備 考
会議費		—	—	
通信費、発送費		*182,038	200,000	実績は会報(No.37, 38)発送費
会報印刷費		*310,800	280,000	実績は会報(No.37, 38)印刷費
ニュース印刷費		—	—	
雑印刷費		—	—	
セミナー補助金		—	—	
会員事務管理費	*60,000	*60,000	*60,000	オフコンリース料(@5,000×12ヶ月)
講師謝金、旅費		0	150,000	春の年会での講師懇親会参加費を想定
記念品作成費等		0	—	
その他		—	—	
予備費		—	100,000	春の年会での企画セッション資料印刷費を想定
合 計		552,838	790,000	予実差 -237,162
収支差額		-85,861	-75,000	予実差 -10,861

年度末繰越金		251,298	337,159	予実差 -80,861
--------	--	---------	---------	-------------

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)